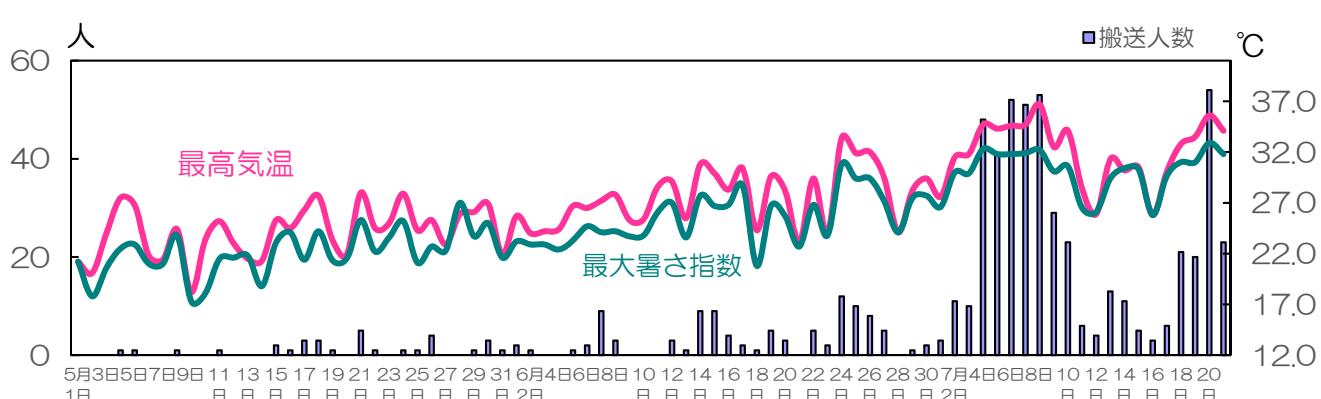


# 熱中症情報

## ＜搬送数＞

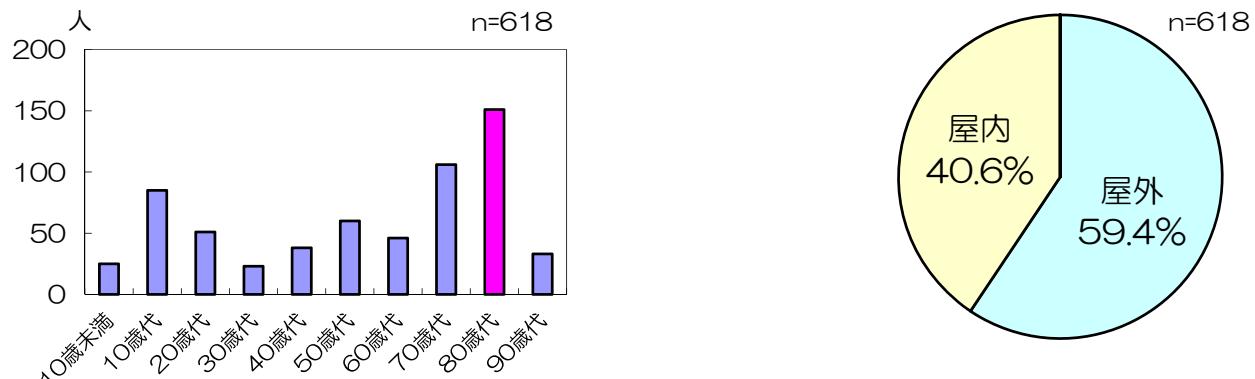
令和6年4月29日～7月21日までの搬送数（消防局データを使用）は、計618人（4月0人、5月31人、6月100人、7月487人）でした。7月4～8日は、最高気温34.3℃以上、暑さ指数31.8℃以上で、搬送数が連日40人以上/日と急増しました。7月20日は、最高気温35.6℃、暑さ指数32.9℃、搬送数が54人と、期間内で最多を記録しました。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく動かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。特に、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

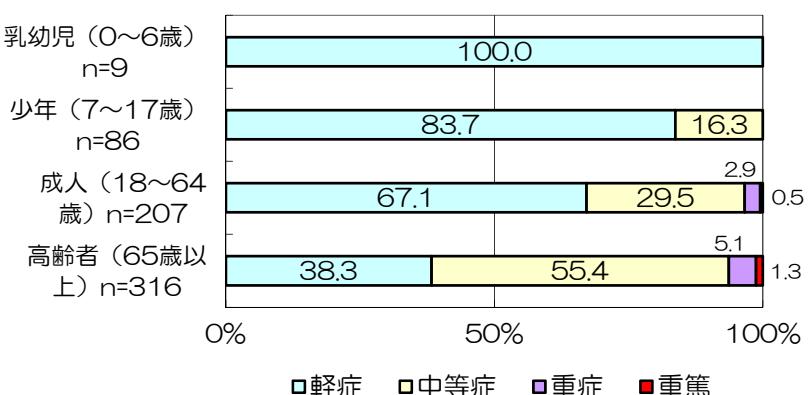
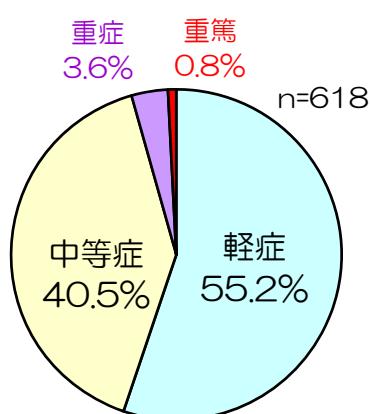


**暑さ指数とは？**人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数（WBGT）とは？](#)」をご覧ください。

＜年齢別＞ 80歳代が151人（24.4%）で最も多く、＜発生場所＞ 屋外59.4%、屋内40.6%で、屋外での発生が多くなっています。



＜重症度\*＞ 軽症55.2%、中等症40.5%、重症3.6%、重篤0.8%でした。高齢者で中等症以上の割合が61.7%と高い傾向が見られました。



\*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。